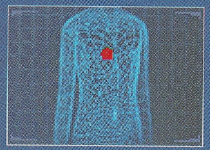
STORY 2-6



手術No10
生きたくない。

患者 大賀沙代子
TIME LIMIT 03:00:00

右肺に原因不明の複数の出血性裂傷が発生。胸孔内すべての出血創の治療を行なう。なお、患者はバイタルが45と危険な状態にあり、低下速度も著しく速い状態にあるので、出血を止めるため大きな裂傷を優先して処置し、バイタルを安定させること。

1 ドレーンで血液を吸引

血だまりができている部分はドレーンで吸引し、術野を確保してから処置を行なうこと。

2 ピンセットで出血創を閉じる

3 閉じた出血創を縫合

血だまりができている大きな裂傷は3ヵ所。それぞれの裂傷に対し1～3の処置をしていく。

4 残りの出血創を縫合



1
血だまりに隠れている出血創は3つ。ドレーンで血だまりから血液を吸引し、傷口を露出させよう。





2
ピンセットを持ち、出血創をまたぐようにタッチペンをスライドさせると傷口を閉じることができる。

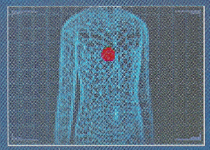


3
閉じた傷口は、時間がたつと開いてしまい再び出血してしまう。閉じたあとはすぐに縫合しよう。



4
出血の激しかった大きな出血創の処置が終了したあとは、残りの傷を縫合すれば手術終了。

STORY 2-9



手術No11
生きたい。

患者 大賀沙代子
TIME LIMIT 05:00:00

右肺に原因不明の出血性裂傷が再発生。胸孔内すべての出血創を治療し、裂傷発生の原因を解明すること。

1 裂傷の縫合

2 ドレーンで血液を吸引

まえの手術では、バイタルが低かったため血だまりができている傷をさきに治療したが、これ以降の手術では、裂傷を縫合したあとに血だまりのある傷の治療をすることをオススメする。

3 ピンセットで傷口をクリッピング

4 クリッピングした傷口を縫合

すべての傷口を縫合したあとにも手術は続く。ここで傷口をすべて縫合してしまうと、つぎの段階へ進んでしまうので、最後の裂傷の縫合を行なうまえに必ずバイタルを80以上にしておくこと。なお、バイタル回復は傷口を閉じた状態で行なうようにしよう。

5 スキャナで裂傷の発生源を探す

新しくできた裂傷の近辺にスキャナを当て、発生源と思われる影を発見しよう。

6 メスで影を切開

7 皮下から露出した発生源にレーザーを照射し根絶する

発生源はギルスと呼ばれる生物兵器の一種「キリアキ」。最初の1体を駆逐するとつぎに2体同時に出現するので、新たに発生した裂傷やレーザー痕の治療、回復剤の投入をしながら5～7の手順でキリアキを駆逐していく。3体目の駆逐後は、すべての裂傷を縫合するのだが、最後の裂傷の縫合が完了すると、新たな寄生体キリアキのマザーが出現。そのまえにバイタルをマックスまで上げておくこと。マザー出現後も3～5の手順で駆逐を行なおう。



5
裂傷が発生した方向近辺にスキャナを持った状態でタッチすると、写真のような影を発見できる。



6
影が消えるまえに、メスで切開しキリアキを皮下から露出させよう。切開痕はヒールゼリーで治療。



7a
キリアキはレーザーをちょっと当てると点滅する。点滅が終了したらもう一度レーザーを当てよう。



7b
写真のように、縫合の必要な裂傷を残した状態で回復剤を投与し、バイタルを上げておくこと。



7c
マザーは必ず写真の傷を発生させながら出現する。中央の傷がではじめたら、すぐに縫合をしよう。



7d
マザーはレーザーを1回当てると皮下へ潜伏。5～7の処置を3回繰り返して駆逐しよう。